

TI); Is. Geo-moon-do, Seo-do (T. Nakai, no. 12154); Is. Jeol-young-do near Fusan (T. Uchiyama, Nov. 1900).

var. *luxurians* (Hatus.) Yamazaki, comb. nov.

*Hedyotis coreana* Lévl. var. *luxurians* Hatusima in J. Jap. Bot. 36: 297, 1961; Fl. Ryukyus, ed. 1: 585, 1971.

*Hedyotis luxurians* (Hatus.) Hatusima, Fl. Ryukyus ed. 2: 895, 1975.

Distr. Ryukyus. Isls. Daito.

Hab. Is. Minami-daitozima (T. Yamazaki, Oct. 1972; Y. Miyagi, no. 8234); Is. Kita-daitozima (T. Yamazaki, no. 571).

□出原栄一：樹木 93+8 pp. 1983. 築地書館，東京。¥2,000. コンピュータで描かれた樹枝状図形のデザイン集である。二又分枝を節間長の減率，分枝角，X-Y 軸上の偏位置という条件で規定して計算機プログラムを作り，これらパラメータにいろいろな値を入れて XY プロッタで作図したものだが，たったこれだけの因子の組合せでさまざまなボタンができることは驚くほどである。しかし何といても条件が簡単なので，植物としてのイメージに該当するものは多くはない。このあたりはデザイナーとしての著者の「植物」感覚と植物屋としての評者の先入観の差であろう。私がまっ先に感じたのは，全形としてのケヤキの樹形，部分としてのハコベやコシダの枝振りとの相似である。どういわけか，ヒカゲノカズラの連想は得られなかった。そのほかにはツノマタやミルのような海藻を思わせるボタンが多い。本書は二又分枝で条件の簡単なものを集めたもので，著者はこのほかに多くの樹木ボタンを作り出しておられるから，続編が期待される。植物学の分野でも近頃分枝型の数値解析やシミュレーションが研究され始めたが，わが国ではまだごく僅かの人がかかわっているだけである。しかしこのような方法で植物の形態的特徴や生長過程をとらえる研究はなかなか面白そうである。示されたプログラムはきわめて簡単なものだから，パソコンをいじる人なら誰でも取りつけるだろう。こういう手段をアートからサイエンスに育てる人が出ることを期待したい。(金井弘夫)

□月刊さつき研究社(編)：ウチョウラン分類事典 306 pp. (内 275 pls.) 1983. 同社，鹿沼。¥2,000. 全体の半分以上がウチョウランの種内に落ち込む品種を網羅している点で異色である。各頁に1品種ずつ鮮明な画色を用いてその変化を示し，その多彩なること驚くばかりで，ことに p. 7-8 の純白から濃紫までの変化に添えて唇弁の斑点の円形を示したものはその一例である。このような事はじつはどの種類でも集めたら必ずあることであろう。どこまでを種の限界として認むべきかは中々の問題だと思いが，それはとにかく，変異の幅の一例としてみるのも一興であろうか。他に数種のよく似たランの花変りと栽培法を載せている。(前川文夫)